

○指標一覧（現状及び目標値）

※「現状」の空欄部分については、確認ができ次第、随時更新していく。

		現状	目標値
がんの1次予防 最終アウトカム			
がんの年齢調整罹患率(全年齢・人口10万人対)		400.4 <R元>	減少
がんの年齢調整死亡率(75歳未満)		69.7 <R4>	58.7
分野別アウトカム			
がん種別年齢調整罹患率(胃・大腸・肺・女性乳房・喫煙関連がん)	胃	46.0 <R元>	減少
	大腸	53.4 <R元>	減少
	肺	44.9 <R元>	減少
	乳房	106.3 <R元>	減少
	-	-	減少
がん種別年齢調整罹患率(肝・ATL・子宮頸部)	肝	14.2 <R元>	減少
	ATL	23.8 <R元>	減少
	子宮頸部	17.0 <R元>	減少
中間アウトカム			
成人の喫煙率	男性	16.5 <R4>	R6年度 策定予 定の第 3次県 民健康 づくり計 画の目 標値を 記載
	女性	2.6 <R4>	
家庭・職場で受動喫煙のある者の割合	家庭・男性	5.5 <R4>	
	職場・男性	13.7 <R4>	
	家庭・女性	8.4 <R4>	
	職場・女性	4.3 <R4>	
バランスの取れた食事をしている人の割合	男性	62.1 <R4>	
	女性	63.9 <R4>	
1日の歩行数	男性	6,076 <R4>	
	女性	5,311 <R4>	
1日当たりの純アルコール摂取量が男40g、女20g以上の者の割合	男性	20.4 <R4>	
	女性	32.7 <R4>	
アウトプット指標			
がん対策推進員の認定者数		253 <R4年度>	増加
がん対策推進員と連携して普及啓発に取り組んだ市町の数			増加
ピンクリボンえひめ協議会によるイベント参加数		7 <R4年度>	増加
がん検診受診率向上プロジェクト参画企業による活動回数			増加
県が実施する市町、事業所、がん対策推進員等を対象とした研修会の開催回数		14 <R4年度>	増加
拠点病院・推進病院で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数(総数)			増加

保健所が実施する事業所や学生等を対象とした喫煙を始めとするがんの危険因子に関する情報提供やがんの予防に関するセミナーの開催回数		増加
県民健康づくり運動推進会議参画団体数	108 (R4年度)	増加
肝炎医療コーディネーター数		増加
B型肝炎定期予防接種実施率		増加
HPVワクチン定期予防接種実施率	第1回45.1 第2回45.1 第3回31.5 (R4年度)	増加
HPVワクチンに関する副反応の相談件数	5 (R4年度)	増加
愛媛県HTLV-1母子感染対策協議会の開催回数		増加

がんの2次予防(がん検診)

最終アウトカム

がん種別年齢調整死亡率(75歳未満)	胃	8.1 (R4)	減少
	大腸	9.0 (R4)	減少
	肺	11.9 (R4)	減少
	乳房	11.2 (R4)	減少
	子宮	5.8 (R4)	減少
	がん種別年齢調整罹患率	胃	46.0 (R元)
大腸		53.4 (R元)	減少
肺		44.9 (R元)	減少
乳房		106.3 (R元)	減少
子宮頸部		17.0 (R元)	減少

分野別アウトカム

検診がん種早期がん割合	-	増加
	-	増加
	-	増加
	-	増加
	-	増加
検診がん種別進行がん罹患率	-	減少
	-	減少
	-	減少
	-	減少
	-	減少

中間アウトカム

検診受診率	胃	55.4 (R4)	60
	大腸	49.6 (R4)	60
	肺	53.1 (R4)	60
	乳房	44.4 (R4)	60
	子宮	42.1 (R4)	60

精密検査受診率	胃90.9 〈R3年度〉	100
	大腸76.6 〈R3年度〉	100
	肺87.8 〈R3年度〉	100
	乳房94.5 〈R3年度〉	100
	子宮84.9 〈R3年度〉	100
がん発見率	胃0.15 〈R3年度〉	増加
	大腸0.19 〈R3年度〉	増加
	肺0.07 〈R3年度〉	増加
	乳房0.37 〈R3年度〉	増加
	子宮0.02 〈R3年度〉	増加
偽陽性割合	-	減少
	-	減少
	-	減少
	-	減少
	-	減少

アウトプット指標

がん対策推進員の認定者数	253 〈R4年度〉	増加
がん対策推進員と連携して普及啓発に取り組んだ市町の数	0 〈R5年度〉	増加
普及啓発キャンペーンの実施状況(資料の実質配布枚数、イベント参加者数)	資料200 参加者500 〈R5年度〉	増加
正しいがん検診の周知のため、住民に対し、がん検診の正しい情報提供を実施した市町数	20 〈R4年度〉	維持
がん対策推進員養成研修会の開催回数	14 〈R4年度〉	増加
特定健診との同時実施、個別医療機関での受診、夜間・休日の受診体制、託児サービス、レディースデイの設定などに取り組む市町数	20 〈R4年度〉	維持
受診勧奨実施市町数	20 〈R5年度〉	維持
乳がん検診、子宮頸がん検診のクーポン事業(国補助事業)又は市町独自の無料検診を実施する市町数	11 〈R4年度〉	増加
がん検診の無料検診(5検診のうち1検診以上)を実施する市町数	10 〈R4年度〉	増加
ピンクリボンえひめ協議会会員企業数	102 〈R5〉	増加
ピンクリボンえひめ協議会によるイベント参加数	7 〈R4年度〉	増加
ピンクリボンえひめ協議会において自社の従業員に受診勧奨をしている会員企業の割合	-	増加
がん検診受診率向上プロジェクト参画企業数	12 〈R5年度〉	増加
受診勧奨時に、「検診機関用チェックリスト 1.受診者への説明」が全項目記載された資料を、全員に個別配布した市町数		増加
市町がん検診担当者研修会の実施回数	1 〈R5年度〉	増加
精密検査未受診者に精密検査の受診勧奨を行った市町数		増加
生活習慣病予防講習会の開催回数	6 〈R5年度〉	増加
精密検査実施医療機関登録数(延べ登録数)	274 〈R5年度〉	増加
県生活習慣病予防協議会の開催数	1 〈R5年度〉	増加
県生活習慣病予防協議会による検診機関実地指導の回数	1 〈R5年度〉	増加
「事業評価のためのチェックリスト」を実施している市町の割合	20 〈R4年度〉	維持

県によるがん検診の精度管理の技術的支援を受けた市町の数	0 〈R4年度〉	増加
指針の遵守市町数	20 〈R4年度〉	維持
指針に基づかないがん検診の中止市町数	0 〈R4年度〉	増加
歯科医師に対する口腔がんに関する県主催研修会の開催数		増加
医療提供体制の均てん化		
最終アウトカム		
がんの年齢調整死亡率	69.7 〈R4〉	58.7
がんの5年生存率	65.7 〈H21-23〉	増加
現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	77.2 〈H30年度〉	増加
分野別アウトカム		
がんの診断・治療全体の総合的評価	平均点8.5 〈H30年度〉	増加
中間アウトカム		
治療経過のどこかで拠点病院・推進病院にかかる割合		増加
がん治療前に、セカンドオピニオンに関する話を受けたがん患者の割合	39.9 〈H30年度〉	増加
院内がん登録の診断日から治療開始日の間にセカンドオピニオンの情報提供に関する保険申請があった患者の数		増加
相談支援センターでセカンドオピニオンに関する情報提供を行った件数		増加
患者への説明文書にセカンドオピニオンに関する項目を入れている病院の数		増加
担当した医師ががんについて十分な知識や経験を持っていたと思う患者の割合	-	増加
医療が進歩していることを実感している患者の割合	83.5 〈H30年度〉	増加
医療従事者が耳を傾けてくれたと感じた患者の割合	79.8 〈H30年度〉	増加
二重検鏡を実施する病院の数		増加
ゲノム材料の基準に合致して処理されたがん検体数		増加
アウトプット指標		
県がん診療連携協議会PDCAサイクル部会の開催回数		増加
初期治療内容に限らず、長期的視野に立った治療プロセス全体に関する十分なインフォームドコンセントの取得に努めている拠点病院・推進病院の割合		増加
手術、放射線療法又は化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師によるセカンドオピニオンを提示する機能を持つか、セカンドオピニオンの可能な他の医療機関を紹介するなど施設間連携によって対応できる体制を有している拠点病院・推進病院の割合		増加
医療に係る安全管理の体制及び取組状況について、第三者による評価や拠点病院間での実地調査等を活用している拠点病院の割合		増加
県がん診療連携協議会集学的治療専門部会の開催回数		増加
(参考)BCPを整備している拠点病院の割合		増加
がん対策推進委員会への小児がん連携病院等の参加数	3 〈R5年度〉	増加
患者とその家族が利用可能なインターネット環境を整備している拠点病院の割合		増加
セカンドオピニオンを提示する場合は、必要に応じてオンラインでの相談を受け付けることができる体制を確保している拠点病院の割合		増加
集学的治療等の内容や治療前後の生活における注意点等に関する、冊子や視聴覚教材等がオンラインでも確認できる拠点病院の割合		増加
拠点病院・推進病院において常勤の病理専門医が1名以上配置されている割合		増加
拠点病院・推進病院において細胞診断に関する専門資格を有する者が1人以上配置されている割合		増加
遠隔病理診断も含め術中迅速病理診断が可能な体制を確保している拠点病院の割合		増加
県内病理診断・細胞診断関係者のレベルアップを目指した研修会の開催回数		増加
WSIを用いたネットワークに参加する病院の数		増加
がん対策推進委員会に緩和ケア担当医師や病理医が参加している拠点病院の割合		増加
がん対策推進委員会に緩和ケア担当医師や病理医が参加している推進病院の割合		増加
がんゲノム医療の推進		
最終アウトカム		
がんの年齢調整死亡率	69.7 〈R4〉	58.7
がんの5年生存率	65.7 〈H21-23〉	増加
現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	77.2 〈H30年度〉	増加

分野別アウトカム		
がんの診断・治療全体の総合的評価	平均点8.5 (H30年度)	増加
中間アウトカム		
ゲノム情報を活用したがん医療について知っている患者の割合	15.7 (H30年度)	増加
がんゲノム情報管理センターに登録された患者数		増加
がんゲノム医療拠点病院・連携病院において遺伝性腫瘍に関する遺伝カウンセリングを実施した患者の数:遺伝性腫瘍に係る「遺伝カウンセリング料」の算定件数		増加
がん遺伝子パネル検査を実施した患者のうち、エキスパートパネルの結果治療薬の選択肢が提示された割合		増加
がん遺伝子パネル検査を実施した患者のうち、エキスパートパネルで推奨された薬剤が投与された割合		増加
アウトプット指標		
がんゲノム医療拠点病院・連携病院の数	4 (R5年度)	増加
がんゲノム医療拠点病院・連携病院における遺伝医学に関する専門的な知識及び技能を有する医師の数		増加
がんゲノム医療拠点病院・連携病院における遺伝医学に関する専門的な遺伝カウンセリング技術を有する者の数		増加
がんゲノム医療拠点病院・連携病院における遺伝カウンセリング等を行う部門につないだりする者の数		増加
がんゲノム医療拠点病院におけるがん薬物療法に専門的な知識及び技能を有する医師の数		増加
四国がんセンターにおけるエキスパートパネルの開催回数(四国がんセンター)		増加
科学的根拠に基づく手術療法・放射線療法・薬物療法の推進		
最終アウトカム		
がんの年齢調整死亡率	69.7 (R4)	58.7
がんの5年生存率	65.7 (H21-23)	増加
現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	77.2 (H30年度)	増加
分野別アウトカム		
がんの診断・治療全体の総合的評価	平均点8.5 (H30年度)	増加
一般の人が受けられるがん医療は数年前と比べて進歩したと思う患者の割合	83.5 (H30年度)	増加
治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた患者の割合	82.2 (H30年度)	増加
中間アウトカム		
アウトプット指標		
手術、放射線治療および薬物療法を効果的に組み合わせた集学的治療および緩和ケアを提供する体制を有するとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療等がん患者の状態に応じた適切な治療を提供している拠点病院・推進病院の割合		増加
拠点病院における我が国に多いがんの鏡視下手術の割合		増加
厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業(JANIS)へ登録している拠点病院の割合		増加
がん診療連携登録歯科医師数		増加
拠点病院・推進病院において常勤の病理専門医が1名以上配置されている割合		増加
放射線治療に関して地域の医療機関と連携するとともに、役割分担を担っている拠点病院・推進病院の割合		増加
放射線治療専門医が常勤で配置されている拠点病院の割合		増加
診療放射線技師が2人以上配置されている拠点病院の割合		増加
専従の放射線治療に関する専門資格を有する常勤の看護師が放射線治療部門に1人以上配置されている拠点病院の割合		増加
拠点病院における自施設での緩和的放射線治療の実施件数		増加
放射線治療を実施する推進病院のうち、放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する専任の医師を配置する割合		増加
外来放射線照射診療料をとっている拠点病院の割合		増加
直線加速器による定位放射線治療加算をとっている拠点病院の割合		増加
IMRT加算をとっている拠点病院の割合		増加
転移・再発5大がん患者の全身薬物療法のうち、8割以上を内科医が主となり担当している拠点病院の割合		増加
1拠点病院あたりの、がん薬物療法専門医数		増加
がん専門薬剤師又はがん薬物療法認定薬剤師が配置されている拠点病院の割合		増加
がん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている拠点病院等の割合		増加
免疫関連有害事象を含む有害事象に対して、他診療科や他病院と連携等して対応している拠点病院等の割合		増加
がん相談支援センターを設置している拠点病院・推進病院の割合		増加

	科学的根拠や信頼できる情報に基づく情報整備・更新を定期的に行い、センター内で情報共有した拠点病院・推進病院の割合		増加
	自施設で対応できるがんについて提供可能な診療内容を病院HP等でわかりやすく広報している拠点病院の割合		増加
チーム医療の推進			
最終アウトカム			
	がんの年齢調整死亡率	69.7 (R4)	58.7
	がんの5年生存率	65.7 (H21-23)	増加
	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	77.2 (H30年度)	増加
分野別アウトカム			
	がんの診断・治療全体の総合的評価	平均点8.5 (H30年度)	増加
中間アウトカム			
	医療者間で情報共有されていた患者の割合	77.9 (H30年度)	増加
	主治医以外に相談しやすいスタッフがいた患者の割合	59.2 (H30年度)	増加
アウトプット指標			
	がんについて専門的な知識及び技能をもつ手術療法に携わる医師、放射線療法、薬物療法に携わる医師等を配置している拠点病院・推進病院の割合		増加
	糖尿病の専門チームを整備し、当該糖尿病チームを組織上明確に位置付け、がん患者に対して適切な血糖コントロールを行っている拠点病院の割合		増加
	感染症制御の専門チームを整備し、当該感染症チームを組織上明確に位置付け、がん患者に対して適切な感染症のコンサルテーションを行っている拠点病院の割合		増加
	栄養の専門チームを整備し、当該栄養サポートチームを組織上明確に位置付け、がん患者に対して適切な栄養管理を提供している拠点病院の割合		増加
	歯科口腔ケアの専門チームを整備し、当該歯科口腔ケアチームを組織上明確に位置付け、がん患者に対して適切な歯科口腔ケアを提供している拠点病院の割合		増加
	褥瘡の専門チームを整備し、当該褥瘡チームを組織上明確に位置付け、がん患者に対して適切な褥瘡ケアを提供している拠点病院の割合		増加
	がん患者に対して、周術期の口腔健康管理や、治療中の副作用・合併症対策、口腔リハビリテーションなど、必要に応じて院内又は地域の歯科医師と連携している拠点病院の割合		増加
	がん病態専門栄養管理栄養士を配置している拠点病院の割合		増加
	がん患者に対して、周術期の口腔健康管理や、治療中の副作用・合併症対策、口腔リハビリテーションなど、必要に応じて院内又は地域の歯科医師と連携している拠点病院の割合		増加
	歯科口腔ケアの専門チームを整備し、当該歯科口腔ケアチームを組織上明確に位置付け、がん患者に対して適切な歯科口腔ケアを提供している拠点病院の割合		増加
	県がん診療連携協議会PDCA部会の開催回数		増加
	県がん診療連携協議会集学的治療専門部会の開催回数		増加
	県がん診療連携協議会役員会、幹事会の開催回数		増加
	地域の医療機関から紹介されたがん患者の受け入れを行っており、がん患者の状態に応じ、地域の医療機関へがん患者の紹介を行っている拠点病院・推進病院の割合		増加
	二次医療圏においてがん医療に携わる医師等を対象とした早期診断、副作用対応を含めた放射線治療・薬物療法の推進及び緩和ケア等に関する研修を実施している拠点病院の割合		増加
	地域を対象として、緩和ケアやがん教育をはじめとするがんに関する普及啓発に努めている拠点病院の割合		増加
	拠点病院と連携して、患者、その家族及び地域の医療機関等からの相談等に対応する体制を整備している推進病院の割合		増加
	相談員が院内外の多様な相談窓口と連携できた拠点病院・推進病院の割合		増加
	拠点病院における緩和ケアチームの新規介入患者数		増加
	拠点病院・推進病院のがん相談支援センターへの相談件数		増加
	診療連携を行っている地域の医療機関等の診療従事者も参加する合同のカンファレンスを毎年定期的に行っている拠点病院の割合		増加
	病理診断又は画像診断に関する依頼、手術、放射線治療、薬物療法又は緩和ケアの提供に関する相談など、地域の医療機関の医師と診断及び治療に関する相互的な連携協力体制・教育体制を整備している拠点病院の割合		増加
	医療圏において、地域の医療機関や在宅診療所等の医療・介護従事者とがんに関する医療提供体制や社会的支援のあり方について情報を共有し、役割分担や支援等について議論する場を年1回以上設けている拠点病院の割合		増加
	がん診療を統括する診療部が設置されている拠点病院の割合		増加
	在宅緩和ケア推進推進モデル事業の地域数	6 (R5年度)	増加

がんのリハビリテーションの推進			
最終アウトカム			
がんの年齢調整死亡率	69.7 (R4)	58.7	
がんの5年生存率	65.7 (H21-23)	増加	
現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	77.2 (H30年度)	増加	
分野別アウトカム			
がんの診断・治療全体の総合的評価	平均点8.5 (H30年度)	増加	
中間アウトカム			
アウトプット指標			
拠点病院・推進病院においてリハビリテーション専門医を配置している割合		増加	
四国がんセンターで実施しているがんリハビリテーション研修プログラム修了者数(四国がんセンター)		増加	
リハビリテーションに携わる専門的な知識及び技能を有する医師が配置されている拠点病院・推進病院の割合		増加	
がんのリハビリテーションに係る業務に携わる専門的な知識及び技能を有する療法士等を配置している拠点病院・推進病院の数		増加	
支持療法の推進			
最終アウトカム			
がんの年齢調整死亡率	69.7 (R4)	58.7	
がんの5年生存率	65.7 (H21-23)	増加	
現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	77.2 (H30年度)	増加	
分野別アウトカム			
がんの診断・治療全体の総合的評価	平均点8.5 (H30年度)	増加	
身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	56.6 (H30年度)	増加	
精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合	61.0 (H30年度)	増加	
中間アウトカム			
治療による副作用の見通しを持たせた患者の割合	62.7 (H30年度)	増加	
身体的なつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談ができると思う患者の割合	49.2 (H30年度)	増加	
外見の変化に関する悩みを医療スタッフに相談ができたがん患者の割合	-	増加	
アウトプット指標			
がん相談支援センターでのアピアランスケアの相談件数		増加	
リンパ浮腫外来が設置されている拠点病院・推進病院の割合		増加	
ストーマ外来が設置されている拠点病院・推進病院の割合		増加	
専任のがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の薬剤師が1人以上配置されている拠点病院・推進病院の割合		増加	
薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている拠点病院・推進病院の割合		増加	
がん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている拠点病院・推進病院の割合		増加	
緩和ケアと在宅医療の推進・充実			
最終アウトカム			
現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	77.2 (H30年度)	増加	
分野別アウトカム			
身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	56.6 (H30年度)	減少	
精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合	61.0 (H30年度)	減少	
療養生活の最終段階において、身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	24.4 (H30-R元)	減少	
中間アウトカム			
つらい症状にはすみやかに対応してくれたと回答した患者・家族の割合	86.3 (H30年度)	増加	
身体的・精神心理的な苦痛により日常生活に支障を来しているがん患者の割合	77.4 (H30年度)	減少	

身体の苦痛や気持ちのつらさを和らげる支援は十分であると思う患者の割合	46.5 (H30年度)	増加
身体的なつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談できると思う患者の割合	49.2 (H30年度)	増加
心のつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談できると思う患者の割合	38.6 (H30年度)	増加
がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	79.6 (H30年度)	増加
家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	56.4 (H30年度)	増加
医療従事者が耳を傾けてくれたと感じた患者の割合	79.8 (H30年度)	増加
患者と医師間で最期の療養場所に関する話し合いがあった割合	38.6 (H30-R元)	増加
死亡場所が自宅の割合		増加

アウトプット指標

緩和ケアチームを有する病院の割合		増加
拠点病院の緩和ケアチーム新規診療症例数		増加
緩和ケア外来の新規診療患者		増加
緩和ケア外来への地域の医療機関からの年間新規紹介患者数		増加
緩和ケアセンターが主催する緩和ケア研修会の開催数	3 (R5年度)	増加
緩和ケア研修会への医師及び医師以外の医療従事者の参加者数		増加
医師会、薬剤師会、看護師会による緩和ケアに係る研修会・症例検討会等の開催数と参加者数		増加
緩和ケアチームに緩和薬物療法に関する専門資格を有する者を配置している拠点病院の割合		増加
緩和ケアチームに医療心理に関する専門資格を有する者を配置している拠点病院の割合		増加
緩和ケアチームに相談支援に関する専門資格を有する者を配置している拠点病院の割合		増加
緩和ケアチームに緩和ケアに携わる専門的な知識及び技能を有する看護師を配置している推進病院の割合		増加
日本サイコオンコロジー学会 登録精神腫瘍医を配置する拠点病院の割合		増加
日本診療心理士資格認定協会臨床心理士を配置する拠点病院の割合		増加
緩和ケア研修会に参加する職種の状況		増加
医療用麻薬の消費量(モルヒネ換算合計)		増加
がん性疼痛緩和指導管理料を算定する拠点病院・推進病院の割合		増加
県在宅緩和ケア推進協議会のモデル事業の地域数	6 (R5年度)	増加
在宅緩和ケアコーディネーターの養成者数		増加
県在宅緩和ケア推進モデル事業に関する公開講座の開催数		増加
県在宅緩和ケア推進協議会及び松山市による症例検討会の開催回数		増加
拠点病院における地域連携を推進するための、地域の役割分担に関する他施設合同会議の開催回数		増加
県在宅緩和ケア推進協議会及び松山市による症例検討会に参加する薬剤師の数		増加
24時間対応の調剤薬局の数		増加
在宅患者訪問薬剤管理指導料の調剤報酬加算を取得した調剤薬局の数		増加
拠点病院・推進病院における地域連携クリティカルパスの運用件数		増加
若年がん患者在宅療養支援事業による助成を行った市町の数	1 (R4年度)	増加
県在宅緩和ケア推進協議会のモデル事業の地域別バックベッドの数		増加
		増加
		増加
		増加
		増加
在宅緩和ケア充実診療所・病院加算を取得した診療所の数		増加
医療保険の機能強化型訪問看護ステーションⅠもしくはⅡと、ターミナルケア加算を取得した訪問看護事業所数		増加
県在宅緩和ケア推進協議会及び松山市による症例検討会の開催回数		増加
県在宅緩和ケア推進協議会及び松山市による症例検討会に保健所又は市町が参加した件数		増加
専門医療機関連携薬局(傷病の区分:がん)の認定数		増加
ターミナルケアマネジメント加算を取得した居宅介護支援事業所数		増加
緩和ケアに関する地域連携を推進するために、地域の他施設が開催する多職種連携カンファレンスに参加する拠点病院の割合		増加
当該医療圏において、地域の医療機関や在宅診療所等の医療・介護従事者とがんに関する医療提供体制や社会的支援のあり方について情報を共有し、役割分担や支援等について議論する場を年1回以上設けている拠点病院の割合		増加
在宅緩和ケア推進協議会及び松山市による研修会の開催回数		増加
がん患者に対して、周術期の口腔健康管理や、治療中の副作用・合併症対策、口腔リハビリテーションなど、必要に応じて院内又は地域の歯科医師と連携している拠点病院の割合		増加

	在宅緩和ケアコーディネーター養成研修の開催回数		増加
	緩和ケア推進事業(委託事業)での研修会の開催回数	3 (R5年度)	増加
希少がん・難治がんの対策の推進			
最終アウトカム			
	希少がんの5年生存率	-	増加
	現在自分らしい日常生活を送れていると感じる希少がん患者の割合	-	増加
	難治性がん(代表例:膵がん)の年齢調整死亡率	膵6.7 (R4)	減少
	難治性がん(代表例:膵がん)の5年生存率	膵8.9 (H21-23)	増加
	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	77.2 (H30年度)	増加
分野別アウトカム			
	希少がんについて、担当した医師ががんについて十分な知識や経験を持っていたと思う患者の割合	-	増加
	がんの診断・治療全体の総合評価(平均点または評価が高い割合)	平均点8.5 (H30年度)	増加
中間アウトカム			
	希少がん患者の初診から診断までの時間、診断から治療開始までの時間	-	増加
	治療スケジュールの見通しに関する情報を十分得ることができた希少がん患者の割合	-	増加
	希少がん診療を積極的に受け入れている拠点病院等における治療開始数		増加
	難治性がん診療を積極的に受け入れている拠点病院等における治療開始数		増加
アウトプット指標			
	拠点病院・推進病院は、県がん診療連携協議会等で連携を図り、希少がん、難治性がん、小児・AYA世代のがんなど、専門的な対応を要する治療等の役割分担及び施設と患者の集約化に努めている。(県がん診療連携協議会専門部会の開催回数)		増加
	希少がん診療を積極的に受け入れている拠点病院の数と他施設へ紹介する拠点病院の数		増加
	希少がんに対する臨床試験を実施している拠点病院の数		増加
	難治性がんに対して臨床試験を行っている拠点病院の数		増加
	県がん診療連携協議会役員会・幹事会の開催回数		増加
	難治性がんに関するHP等の整備を行っている拠点病院の数		増加
	難治性がん診療を積極的に受け入れている拠点病院の数と他施設へ紹介する拠点病院の数		増加
小児・AYA世代のがん対策の推進			
最終アウトカム			
	小児がん患者の5年生存率	-	増加
	現在自分らしい日常生活を送れていると感じる若年がん患者の割合	-	増加
分野別アウトカム			
	若者がん患者の診断・治療全体の総合的評価(平均点または評価が高い割合)	-	増加
中間アウトカム			
	小児がん連携病院で治療を受けた小児がん患者の割合		増加
	がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じる若年がん患者の割合	79.6 (H30年度)	増加
	外見の変化に関する悩みを医療スタッフに相談ができた若年患者の割合	-	増加
	治療開始前に、生殖機能への影響に関する説明を受けたがん患者・家族の割合	25.3 (H30年度)	増加
アウトプット指標			
	小児がん連携病院数	3 (R5年度)	増加
	小児がん中国・四国ネットワーク会議の開催回数		増加
	小児がん中国・四国ネットワーク会議に愛媛県が参加した回数	0 (R5年度)	増加
	小児がん連携病院で小児がんの薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師の数		増加
	小児がん連携病院で小児の手術に携わる、小児がん手術に関して専門的な知識及び技術を有する医師の人数		増加
	小児がん連携病院で小児がんの放射線療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数		増加
	小児がん連携病院における小児がん看護に関する専門的な知識や技能を習得している看護師の人数		増加
	小児がん連携病院における医療環境にある子どもや家族への療養支援に関する専門的な知識及び技能を有する者の人数		増加
	多職種からなるAYA支援チームを設置している拠点病院の割合		増加
	長期フォローアップ外来を設置している小児がん連携病院の数		増加
妊孕性温存療法に関する体制整備			
最終アウトカム			
	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	77.2 (H30年度)	増加
分野別アウトカム			
	精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合	61.0 (H30年度)	増加

中間アウトカム		
治療開始前に、生殖機能への影響に関する説明を受けたがん患者・家族の割合	25.3 〈H30年度〉	増加
妊孕性温存治療費補助制度の利用件数	11 〈R4年度〉	増加
アウトプット指標		
愛媛県がん・生殖医療ネットワークに参加する拠点病院・推進病院の割合		増加
がん・生殖医療の意思決定支援に関する人材育成を実施している拠点病院の割合		増加
相談支援センターにおける「妊孕性・生殖機能」に関する相談件数		増加
日本がん・生殖医療登録システム JOFRへの登録症例数		増加
高齢者がん対策の推進		
最終アウトカム		
現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	77.2 〈H30年度〉	増加
分野別アウトカム		
がんの診断・治療全体の総合的評価	平均点8.5 〈H30年度〉	増加
中間アウトカム		
患者と医師間で最期の療養場所に関する話し合いがあったと回答した人の割合	38.6 〈H30-R元〉	増加
アウトプット指標		
当該がん医療圏において、地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護従事者とがんに関する医療提供体制や社会的支援、緩和ケアについて情報を共有し、役割分担や支援等について検討を行っている拠点病院の割合		増加
意思決定能力を含む機能評価を行い、各種ガイドラインに沿って、個別の状況を踏まえた対応をしている拠点病院の割合		増加
新規医療技術の速やかな医療実装		
最終アウトカム		
がんの年齢調整死亡率	69.7 〈R4〉	58.7
がんの5年生存率	65.7 〈H21-23〉	増加
現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	77.2 〈H30年度〉	増加
分野別アウトカム		
がんの診断・治療全体の総合的評価	平均点8.5 〈H30年度〉	増加
一般の人が受けられるがん医療は数年前と比べて進歩したと思う患者の割合	83.5 〈H30年度〉	増加
治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた患者の割合	82.2 〈H30年度〉	増加
中間アウトカム		
アウトプット指標		
臨床試験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口を設置している拠点病院の割合		増加
人材育成と教育環境の整備		
最終アウトカム		
がんの年齢調整死亡率	69.7 〈R4〉	58.7
がんの5年生存率	65.7 〈H21-23〉	増加
現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	77.2 〈H30年度〉	増加
分野別アウトカム		
がんの診断・治療全体の総合的評価	平均点8.5 〈H30年度〉	増加
中間アウトカム		
担当医師はがんについて十分な知識や経験を持っていたと感じた患者の割合	-	増加
アウトプット指標		
松山大学・愛媛大学におけるがんプロフェッショナル教育関連講演会の開催数		増加
がん治療専門薬剤師、ならびにがん治療専門医(がん薬物療法専門医、がん治療認定医、放射線治療専門医等)の専門職の養成数		増加
二次医療圏においてがん医療に携わる医師等を対象とした早期診断、副作用対応を含めた放射線治療・薬物療法の推進および緩和ケア等に関する研修を実施している拠点病院の割合		増加
がんゲノム医療コーディネーター研修会参加人数		増加

緩和ケア研修修了者数	医師94 (R5)	増加
	コメディカル 63 (R5)	増加
拠点病院・推進病院における日本がん治療認定医機構がん治療認定医数、ならびにがんの病理診断が可能な病理専門医数		増加
拠点病院・推進病院における日本看護協会がん看護専門看護師数ならびにがん看護認定看護師数		増加
拠点病院・推進病院における日本医療薬学会がん専門薬剤師数		増加
国立がん研究センター主催の各種がん相談支援センター相談員研修、あるいは愛媛県がん相談員研修を受けた拠点病院・推進病院の割合		増加
放射線治療専門医が配置されている拠点・推進病院の割合と、専門医数		増加
がん薬物療法専門医が配置されている拠点・推進病院の割合		増加

がん登録の充実と活用促進

最終アウトカム

がんの年齢調整死亡率	69.7 (R4)	58.7
がんの5年生存率	65.7 (H21-23)	増加
現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	77.2 (H30年度)	増加

分野別アウトカム

中間アウトカム

がん登録精度指標(死亡情報のみの症例及び遡り調査で「がん」が確認された症例 DCI値)		増加
院内がん登録の情報を患者向けに提供出来るよう協力している拠点病院、推進病院の割合		増加
厚生労働省院内がん登録の実施診に合致した院内がん登録を実施している病院の割合		増加
がん登録情報の提供数		増加
がんサポートサイトえひめのアンケートで診断確定前に同サイト又はがんサポートブックえひめを読んでいたと回答した患者の割合		増加

アウトプット指標

がん診療連携協議会がん登録専門部会によるがん登録に関する研修会の開催数		増加
がん登録専門部会によるがん登録に関する研修会の企画に参加した病院数及び研修会に参加した人数		増加
院内がん登録を実施する拠点病院・推進病院の割合		増加
がん登録情報の公表の状況		増加
がんサポートサイトえひめ閲覧数		増加
全国がん登録実務者研修会の開催回数	1 (R5年度)	増加
全国がん登録の精度指標としてのMI比・%DCO	MI比0.38 (R元)	増加
	%DCO1.7 (R元)	増加
県及び市町へのがん登録情報の提供件数	3 (R5年度)	増加

相談支援及び情報提供

最終アウトカム

現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	77.2 (H30年度)	増加
------------------------------	-----------------	----

分野別アウトカム

治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた患者の割合	82.2 (H30年度)	増加
相談支援センターを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合	-	増加
家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	56.4 (H30年度)	増加
ピアサポートを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合	-	増加

中間アウトカム

がん診断～治療開始前に病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	79.6 (H30年度)	増加
がん相談支援センターを知っている患者・家族の割合	63.0 (H30年度)	増加
相談できる支援があると感じた患者・家族の割合	-	増加
治療費用負担が原因で、がんの治療を変更・断念した患者のうち、治療費用負担の問題がなければ受けたであろう治療が、保険診療範囲内での治療だった患者の割合	-	減少
ピアサポーターについて知っているがん患者の割合	32.8 (H30年度)	増加

アウトプット指標

県がん診療連携協議会がん相談支援専門部会の広報活動の実施回数		増加
がんサポートサイトえひめの閲覧数		増加
イベント広報やメディア依頼など、地域住民へ情報を発信した拠点病院・推進病院の割合		増加
がん相談支援センターについて個別に説明し、案内を配布した拠点病院・推進病院の割合		増加
県がん診療連携協議会がん相談支援専門部会の開催数		増加
地域の医療福祉関係者や就労支援等関係者に向けて、講演会や研修会、施設訪問(挨拶まわり)等を行った拠点病院・推進病院の割合		増加
患者・家族総合支援センターの利用件数		増加
患者・家族総合支援センターのイベント開催数		増加
患者サロンを設置する拠点病院・推進病院の割合		増加
がんサロンの広報活動を行った拠点病院・推進病院の割合		増加
がんサロン・患者会の運営支援を行った拠点病院・推進病院の割合		増加
県がん相談支援推進協議会の開催数	2 (R5年度)	増加
協議会や部会に参加し、課題を共有、検討した拠点病院・連携病院の割合		増加
拠点病院のがん相談支援センターに配置されている相談員の研修修了者数		増加
ピアサポート活動の場を作った拠点病院・推進病院の割合		増加
拠点病院1施設あたりの連携している患者団体の数		増加
がん相談支援センターを設置する推進病院の割合		増加
地域でのイベントに参加した拠点病院・連携病院の割合		増加
科学的根拠や信頼できる情報に基づく情報整備・更新した情報を活用した拠点病院・推進病院の割合		増加
がんの冊子やリーフレットを設置した拠点病院・推進病院の割合		増加
がんサポートブックえひめの配布数		増加
がんサポートブックえひめなど、地域の療養情報を活用した拠点病院・推進病院の割合		増加
緩和ケアチームに、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する常勤の医師を有する拠点病院の割合		増加
がん患者の自死に関する諸問題に院内で対応できる拠点病院の割合		増加
がんサポートサイトえひめの閲覧数		増加
県民健康づくり運動推進会議の開催回数		増加
ピンクリボンえひめ協議会によるイベント参加数	7 (R4年度)	増加
町なかサロンの利用件数		増加
町なかサロンのイベント開催数		増加
ピアサポーターの養成数		増加

社会連携に基づくがん対策

最終アウトカム

現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	77.2 (H30年度)	増加
------------------------------	-----------------	----

分野別アウトカム

望んだ場所で過ごせたがん患者の割合	51.3 (H30-R元)	増加
-------------------	------------------	----

中間アウトカム

がん治療前に、セカンドオピニオンに関する話を受けたがん患者の割合	39.9 (H30年度)	増加
患者と医師間で最期の療養場所に関する話し合いがあった割合	38.6 (H30-R元)	増加

アウトプット指標

県在宅緩和ケア推進協議会及び松山市による公開講座の開催回数		増加
県在宅緩和ケア推進協議会及び松山市による症例検討会の開催回数		増加
コーディネーターの啓発についての活動		増加
がん相談支援センターでの社会保障制度等に関する相談件数		増加
がんサポートサイトえひめ閲覧数		増加
愛媛県在宅緩和ケア推進協議会ホームページの閲覧数		増加

がん患者等の社会的な問題への対策(サバイバーシップ支援)

最終アウトカム

現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	77.2 (H30年度)	増加
------------------------------	-----------------	----

分野別アウトカム

治療費用の負担が原因で、がんの治療を変更・断念したがん患者の割合	4.7 (H30年度)	減少
金銭的負担が原因で生活に影響があったがん患者の割合	21.9 (H30年度)	減少
がん診断～治療開始前に病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	79.6 (H30年度)	増加
家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	56.4 (H30年度)	増加

身体的・精神心理的な苦痛により日常生活に支障を来しているがん患者の割合	77.4 〈H30年度〉	減少
-------------------------------------	-----------------	----

中間アウトカム

治療を始める前に就労の継続について、医療スタッフから説明を受けた割合	40.1 〈H30年度〉	増加
がんと診断後も仕事を継続していたがん患者の割合	28.2 〈H30年度〉	増加
退職したがん患者のうち、がん治療の開始前までに退職した者の割合	85.3 〈H30年度〉	減少
治療と仕事を両立するための社内制度等を利用した患者の割合	29.5 〈H30年度〉	増加
がんの治療中に、職場や仕事上の関係者から治療と仕事両方を続けられるような勤務上の配慮があったと思う患者の割合	62.7 〈H30年度〉	増加
外見の変化に関する悩みを医療スタッフに相談ができたがん患者の割合	-	増加
心のつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談できると感じている患者の割合	38.6 〈H30年度〉	増加
精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合	61.0 〈H30年度〉	減少
身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談ができると思う患者の割合	49.2 〈H30年度〉	増加
身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	56.6 〈H30年度〉	減少
療養生活の最終段階において、身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	24.4 〈H30-R元〉	減少
がんと診断されてから周囲に不必要な気を遣われている割合	8.6 〈H30年度〉	減少
(家族以外の)周囲の人からがんにに対する偏見を感じる割合	6.3 〈H30年度〉	減少

アウトプット指標

がん相談支援センターにおいて就労支援相談を受けることができる体制を整えている拠点病院・推進病院の割合		増加
四国がんセンターと愛媛労働局の連携による就労相談の件数		増加
拠点病院のがん相談支援センターにおける就労支援の相談件数		増加
拠点病院における就労の専門家による相談会の回数		増加
ハローワークと連携した就職支援をおこなっている拠点病院の割合		増加
就労支援・両立支援に取り組んだ拠点病院・推進病院の割合		増加
おれんじの会への委託事業による就労アドバイザーの派遣回数		増加
長期療養者就職支援担当者連絡協議会及び愛媛県地域両立支援チーム会議の開催回数	協議会1 〈R5年度〉	増加
	チーム会議1 〈R5年度〉	増加
治療と仕事の両立宣言企業の認定数		増加
長期療養者就職支援事業を活用した就職者数*がんにについて		増加
患者体験調査に参加した拠点病院・推進病院の数	10 〈R5年度〉	増加
拠点病院におけるアピアランスに関する相談件数		増加
ウィッグ・胸部補整具等の購入費を助成する市町の数	3 〈R5年度〉	増加
緩和ケア研修修了者数	医師94 〈R5〉	増加
	コメディカル 63 〈R5〉	増加
自死リスクに関する研修を実施した拠点病院の数		増加
県内のがん診療連携登録歯科医数(がん情報サービス)		増加
情報取得や意思疎通に配慮が必要な者に対するマニュアルを作成している拠点病院の割合		増加
拠点病院で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数(総数)		増加

ライフステージに応じた療養環境への支援

最終アウトカム

現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	77.2 〈H30年度〉	増加
------------------------------	-----------------	----

分野別アウトカム

家族の悩みや負担を相談出来る支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	56.4 〈H30年度〉	増加
--	-----------------	----

中間アウトカム		
治療開始前に、生殖機能への影響に関する説明を受けたがん患者・家族の割合	25.3 (H30年度)	増加
若年がん患者在宅療養支援制度の利用があった市町の数	1 (R4年度)	増加
アウトプット指標		
院内学級を設置する小児がん連携病院の割合	100 (R5)	維持
小児がん患者とその家族が利用できる宿泊施設を設置する小児がん連携病院の割合		増加
県がん相談支援推進協議会の開催数(県はAYA世代のがん患者への治療や相談支援体制の整備について、がん相談支援推進協議会で検討している。)	2 (R5年度)	増加
がん診療連携協議会集学的専門部会による小児・AYA世代がん患者に関するセミナー等の開催回数		増加
ラ・ファミリエによる小児がん患者に関する相談支援の件数		増加
ラ・ファミリエによる小児がん患者に関する相互交流支援事業の件数		増加
ラ・ファミリエによる小児がん患者に関する就労支援の件数		増加
小児がん連携病院のがん相談支援センターにおける、小児・AYA世代のがん患者の発育及び療養上の相談への対応・支援のうち、教育に関する相談件数		増加
国立がん研究センターによる「がん相談支援センター相談員基礎研修」(1)(2)を受講後、国立成育医療研究センターが実施する「小児がん相談員専門研修」を修了し、小児がん拠点病院等に配置されている者の数		増加
長期フォローアップ外来を開設している小児がん拠点病院等の数		増加
AYA世代にあるがん患者に対する治療療養や就学、就労支援に関する相談に対応している、または、適切な機関に紹介している拠点病院の割合(現況報告書)		増加
拠点病院・推進病院のがん相談支援センターで、高校生の学習・学校生活に関する相談を受けた件数		増加
ラ・ファミリエによる小児がん患者の学習支援を行った人数		増加
小児がん連携病院のがん相談支援センターにおける、小児・AYA世代のがん患者に対する就労に関する相談件数		増加
小児がん連携病院が連携している、小児がんに関する患者団体の数		増加
当該がん医療圏において、地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護従事者とがんに関する医療提供体制や社会的支援、緩和ケアについて情報を共有し、役割分担や支援等について検討を行っている拠点病院の割合		増加
意思決定能力を含む機能評価を行い、各種ガイドラインに沿って、個別の状況を踏まえた対応をしている拠点病院の割合		増加
がん教育・がんに関する知識の普及啓発		
最終アウトカム		
分野別アウトカム		
中間アウトカム		
周囲の人からがんに対する偏見を感じる患者の割合	6.3 (H30年度)	減少
県内でがん教育を実施する学校数		増加
アウトプット指標		
愛媛県がん教育推進協議会の開催回数	2 (R5年度)	増加
がん教育モデル事業の実施回数	2 (R5年度)	増加
外部講師を活用してがん教育を実施した学校の割合	全体4.1 (R4年度)	増加
県が開催する県民向けのがんに関するセミナーの開催回数	0 (R5年度)	増加
拠点病院が開催する県民向けのがんに関するセミナーの開催回数		増加
がんサポートサイトえひめの閲覧数		増加
緩和ケアやがん教育をはじめとするがんに関する普及啓発に努めている拠点病院の割合		増加
県がん対策推進委員会における患者委員の割合	10 (R5年度)	増加
がん検診の受診者にがん相談支援センター等の相談窓口について情報提供している市町の割合		増加
受診勧奨時に必要な情報を受診者に伝えている市町の割合	100 (R5年度)	維持
地域医療介護総合確保基金により、相談支援・情報提供活動(在宅がん普及啓発事業)を実施する拠点病院・団体の数		増加
拠点病院のがん相談支援センターの社会的支援制度等に関する相談件数		増加